

## 山口県から世界へ

県立柳井商業高校 校長 小池 正 夫



2000年9月3日午後3時30分。体育館に大音量のフォーンが鳴り響いた。第20回ユニバシアード北京大会男子決勝戦の開始である。北京工人体育館を埋めた2万人の観衆は、準決勝で強豪アメリカに一点差の劇的歴史的勝利をおさめた母国の英雄達が、決勝戦で欧州の雄スロベキアを撃破し頂点に君臨することを確信し、館内は早くも興奮の坩堝であった。

両国歌演奏の後、審判員の紹介。

「レフェリー・Mr.シュミット・ドイツ」

「アンパイア・Mr.小池・ジャパン」

思いがけない盛大な歓声と拍手が起こる。（TO担当者が「日本からきた優秀な裁判員=審判員と紹介したんだよ」と教えてくれた。）私の「ファイナル・ステージ」がまさに始まろうとしていた。

私の審判経歴のスタートは高校2年生の6月であった。青二才の生意気な笛吹童子であったが、その頃から私の夢は「いつか山口（=地方）の審判員から世界の頂点へ飛躍すること」であった。大学2年から本格的な活動を開始し、卒業後も県内で審判活動を継続させていただいた。己の技量や態度は二流以下でありながら、その夢への思いだけはさらに強くなっていった。その後、幸いにも上級審判員への機会を与えていただき、その節々では、先輩審判員の皆様から事細かな御指導や御助言をいただき「目から鱗」といった経験が幾度もあった。また、多くの県内バスケット関係者の方々からも厳しいながら、温かい御支援や御激励をいただいた。さらに、若輩の身で県審判長としての重責を何とか果たすことができたことも、上級審判員として全国各地を回り、さらには世界へも飛び出すことができたことも、ひとえに関係者の皆様のお力添えがあつてのことであり、心から感謝している。

こうした山口県バスケットボール関係者の皆様のおかげで私の夢は実現することができたが、「次の夢」は、一人でも優秀な審判員を育成し、自分を育てていただいた山口県バスケットボール界に「恩返し」をすることである。幸い、松本隆志国際公認審判員が誕生し、その後ろ姿で県内審判員を果敢にリードしている。微力ながら、笛を口に替えてその手助けとして活動していきたいと思っている。

終わりに、60年を迎えた県協会のリードのもとで、山口県のバスケットボール界が今後さらに発展することを心から祈っております。

---

「夢を追うー山口県バスケットボール協会60年のあゆみー」（平成19年2月発行）に掲載  
肩書きは掲載当時のものです。

この文章の無断転載は固くお断りします。